

公益財団法人千里リサイクルプラザ令和7年度(2025年度)定時評議員会議事録

1. 開催日時 令和7年5月23日(金) 午前10時00分から同11時10分
2. 開催場所 吹田市資源リサイクルセンターA棟5階 講義室1
3. 評議員現在数 8名
4. 評議員定足数 5名
5. 出席評議員数 6名
(出席評議員) 内田 慶市 岡松 道哉 紙谷 和典
大黒 賢宏 新川 達郎 丹羽野和夫
(欠席評議員) 高岡 督弘 中嶋 洋
6. 出席理事 小幡 範雄 平田 美恵子 上野 浩文
7. 出席監事 原田 憲 堀江 篤史
8. 会議の目的事項

決議事項 第1号議案 令和6年度(2024年度)事業報告及び決算の件
第2号議案 評議員2名選任の件
第3号議案 監事1名選任の件
第4号議案 理事7名選任の件

報告事項 ア 令和6年度第1回理事会決議等について
イ 令和6年度第2回理事会決議等について
ウ 令和6年度第3回理事会決議等について
エ 令和6年度第4回理事会決議等について
オ 令和6年度第5回理事会決議等について
カ 令和6年度第6回理事会決議等について

9. 会議の概要

(1) 議長の確認

小幡範雄理事長の挨拶後、冒頭で平田美恵子事務局長が司会となり、議事の進行に先立ち、定款第19条に定める評議員の互選による議長の選出について諮ったところ、満場一致をもって内田慶市評議員が議長に選出された。

(2) 定足数の確認

議長は、総評議員数8名のうち出席評議員数が6名であることを確認し、定足数を満たしているため、本日の評議員会が有効に成立していることを報告した。

(3) 議事録署名人の指名

議長が本日の議案の審議に入る前に、議事録署名人として岡松道哉評議員及び丹羽野和夫評議員を指名した。

(4) 議案の審議状況及び議決結果

①第1号議案 令和6年度(2024年度)事業報告及び決算の件

議長が、第1号議案を議題とし、事務局に説明を求めたところ、平田美恵子事務局長が、この議案については定款第8条第1項に定める監事の監査を受け理事会の承認を受けたので、評議員会の議決を求める旨を説明した。次に原田憲監事より、監査意見として、事業報告は法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めること、理事の職務の執行に関する不正の

行為または法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められないこと、また、計算書類及び附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び正味財産の増減の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認める旨の監査報告があった。続いて事業報告については玉江千佳子主幹、大森亘主幹が、決算書類については林幸彦主幹がそれぞれ議案書を基に順次説明を行った。

説明が終わり、議長が質問及び意見を求めたところ、次のような質問及び意見の表明があった。
(紙谷評議員)

投資有価証券評価損が 9,700 万円ということであるが、これに対する説明をお願いしたい。
(田崎参事)

投資有価証券は 8 億円と 1 億 6,000 万円の国債を保有しており、決算時には時価評価で評価損を計上している。資産の価値が減少しているようにみえているだけであって、実際は元本保証されている。

(紙谷評議員)

ほとんどが国債ということか。

(田崎参事)

すべて国債である。

(平田事務局長)

長期の国債を購入しているので、満期まで保有するか、金利が上がってきている現状を考えて利率のよいもの買い替えるのか、検討しなければならない。

(紙谷評議員)

金利の動向によって、利率のよいもの買い替えを検討した方がよいのではないかと。

(平田事務局長)

償還まで保有していれば、元本は保証されるが、それまでに利率の良いもの買い替えるかどうか、検討の余地がある。

(岡松評議員)

利息収入についてお聞きしたい。国債の買い替えで収入が増加することはあるのか、買い替えのタイミングに近いものはあるのか。当面はこの利息収入が確保できるのか。

(田崎参事)

国債の償還が一番近いもので令和 13 年 12 月である。もう一つの国債の償還日は令和 24 年 3 月である。

(天野参事)

償還までは、毎年利息収入が確保できるので、償還までに買い替え等を検討したいと思っている。

質問及び意見を求めたところ、これ以上質問及び意見はなかったため採決を諮ったところ、満場一致をもって第1号議案は承認可決された。

②第2号議案 評議員2名選任の件

議長が、第2号議案を議題とし、事務局に説明を求めたところ、平田美恵子事務局長が、本年度の定時評議員会終結の時をもって現評議員 8 名のうち 1 名が任期満了となるため、再任候補者 1 名を提案し、また別に 1 名の評議員が任期途中で辞任を申し出たため新たに候補者 1 名を提案、併せて 2 名につき、議長は候補者ごとに名前を読み上げ審議した。

審議した結果、議長は評議員候補者 2 名の選任の決議を求め、出席評議員全員一致で可決

した。

(再任)

岡松 道哉

(新任)

金林 宏哉

任期は選任された日から令和 11 年度定時評議員会の終結の時まで。

なお、任期途中での辞任者1名は次のとおり。

(辞任)

高岡 督弘

③第 3 号議案 監事 1 名選任の件

議長が、第 3 号議案を議題とし、事務局に説明を求めたところ、平田美恵子事務局長が、本年度の定時評議員会終結の時をもって現監事 2 名のうち 1 名が任期途中での辞任を申し出たため新たに候補者 1 名を提案し、議長は候補者の名前を読み上げ審議した。なお、監事の選任議案の提出については、一般法人法第72条第1項の規定に基づき、監事の同意を得ていると述べた。

審議した結果、議長は監事候補者1名の選任の決議を求め、出席評議員全員一致で可決した。

(新任)

仲上 健一

任期は選任された日から令和 11 年度定時評議員会の終結の時まで。

なお、任期途中での辞任者1名は次のとおり。

(辞任)

原田 憲

④第 4 号議案 理事 7 名選任の件

現理事 10 名のうち 6 名が任期満了となるため、再任候補者 6 名を提案し、また別に 1 名の理事が任期途中での辞任を申し出たため新たに候補者 1 名を提案、併せて 7 名につき、議長は候補者ごとに名前を読み上げ審議した。

審議した結果、次のとおり選任を出席評議員全員一致で可決した。

(再任)

小幡 範雄、平田 美恵子、黒田 勇、柴田 仁、藤澤 宏、和田 大志郎

(新任)

畑 伸彦

任期はいずれも、選任された日から令和 9 年定時評議員会の終結の時まで。

なお、任期途中での辞任者1名は次のとおり。

(辞任)

東 真吾

(5) 報告事項

①令和6年度第 1 回理事会報告等について

小幡範雄理事長が、令和 6 年度第 1 回理事会では、第 1 号議案「令和 5 年度(2023 年度)公益財団法人千里リサイクルプラザ事業報告及び決算の件」、第 2 号議案「令和 6 年度(2024 年度)定時評議員会招集の件」、第 3 号議案「公益財団法人千里リサイクルプラザ市民研究所長解任及び選任の件」が原案どおり承認された旨の報告を行った。

②令和 6 年度第 2 回理事会から令和 6 年第 4 回理事会報告等について

小幡範雄理事長が、令和6年度第2回理事会においては第4号議案「令和6年度定時評議員会招集の目的である事項の一部追加の件」を、令和6年度第3回理事会においては第5号議案「第2号案及び第4号議案にかかる評議員の議決は定款第21条第4項の規定により行う件」を、令和6年度第4回理事会では第6号議案「専務理事の選定の件」を提案し、いずれも決議の省略により原案通り承認されたことを報告した。

③令和6年度第5回理事会報告等について

小幡範雄理事長が、第7号議案「公益財団法人千里リサイクルプラザ会員規約の一部改正の件」を提案し、会費の納入や退会の取扱いについて明確でなかった点について改正し、原案通り承認されたことを報告した。次に令和6年度上半期の代表理事及び業務執行理事の「職務の執行状況報告」と第1四半期と第2四半期の監事監査報告について述べた。

④令和6年度第6回理事会報告等について

小幡範雄理事長が、第8号議案「公益財団法人千里リサイクルプラザ事務局職員定年後再雇用規則の制定の件」で、高齢化が進む中、当財団では定年を66歳に引き上げているが、今後の安定した人材確保のためには経験豊富な人材の活用が重要であり、66歳で定年を迎えた職員を対象に、70歳まで再雇用できる制度を新たに制定することを提案した。次に第9号議案「公益財団法人千里リサイクルプラザ令和7年度(2025年度)事業計画及び収支予算等の承認の件」を提案し、それぞれ原案通り承認されたことを報告した。

続いて議長は、その他報告事項の職務執行状況報告、職場におけるハラスメントの予防・対応について、公益財団法人千里リサイクルプラザ第2次中期計画の実施状況について説明を求めた。

田嶋貴子参事が、令和7年度第1回理事会において、定款第26条第4項に定める、代表理事及び業務執行理事の「職務の執行状況報告」として、令和6年度事業報告及び令和6年度決算他について理事長及び副理事長がそれぞれ自ら職務執行状況を報告した旨述べた。次に、職場におけるハラスメントの予防、発生時の対応について記載した「職場におけるハラスメントの予防・対応について」を作成したことを報告し、くるくるプラザホームページの閲覧状況を Google Analytics での分析結果により報告した。閲覧数が大きく伸びたものもあるが、サイト訪問の絶対数については未だ多いとは言えず、より分かりやすい情報提供に努める必要がある旨説明した。

次に天野美晴参事が第2次中期計画3年目の実施状況について資料を元に説明した。令和6年度は全体として一定の成果を得たものと評価しており、特に市民研究所についてはくるくる環境スクール卒業生の多くが市民研究員として活動していること、地域交流にもつながるくるくるサロンを設置したこと等、精力的な活動ができたこと述べた。しかしながら、未だ課題のある項目については、折り返しの4年目、最終年度の5年目までに見直さなければならないと報告した。

報告が終わり、議長が質問及び意見を求めたところ、次のような質疑応答があった。

(紙谷評議員)

令和7年6月1日より熱中症対策で、事業者にも熱中症の対策を求められるようになる。施設見学等で多くの方が来館されると思うが、財団として対応を求められることはないのか。

(小幡理事)

現状では具体的な対応はしていないが、通知等確認して、必要な対策を取りたいと思う。

(丹羽野評議員)

6月1日からの施行であり、罰則規定もあったはずであるため、確認した方がいい。

(平田事務局長)

施設見学他事業において多くの人が来館するので、対策をしていかなければならない。昨年度においては、イベント開催時に熱中症警戒アラートが発令されたこともあり、引き続き十分注意して取り組んでいきたい。

(大黒評議員)

ハラスメントの予防・対応についてはいつ作成されたものか。また、作成後通報等はあったのか。

(平田事務局長)

令和7年度当初、ガイドラインとしてまとめたものである。当財団において、これまでハラスメントの行為及び通報等の事例はなかったが、法律によって中小事業主においても義務化されたこと、また理事会の中でもハラスメントの対応についての意見もあり、それらを踏まえて作成に至ったものである。

(大黒評議員)

職員は現在何名いるのか。

(平田事務局長)

職員は9名であるが、多くの臨時雇用員が在籍しているため、今後の対応については臨時雇用員も含めた全体としての対応が求められる。なお、ハラスメントへの対応は、職場内だけではなく、カスタマーハラスメント等の外部からの行為も含めて総合的な対応が必要であると認識している。

(大黒評議員)

少人数の職場では内部のハラスメントは表面化しにくいと思う。総務担当が窓口となると対応が難しい面も出てくるのではないかと思うので、今後も引き続き検討して欲しい。

(内田議長)

財団の名称変更について確認したい。名称変更については吹田市からの要請によるものか、それとも財団側からの提案であるのか。また、変更の理由についても教えて欲しい。

(小幡理事長)

名称変更は財団側からの提案である。吹田市とも協議を行っているが、難しい状況である。「リサイクル」という名称について、もう少し異なる表現、例えば「循環」などを検討していきたいと考えている。

(天野参事)

財団名称の中の「リサイクル」という言葉は、当初は広義の意味で使用されていたが、近年は狭義の意味で用いられることが多くなっている。そのため、「リサイクル」という言葉を変更したいというのが主な理由である。ただし、施設の名称が「吹田市資源リサイクルセンター」であるため、財団の名称のみを変更すると、市民に混乱を与える可能性がある。そのため、名称を変更する際には、財団名と施設名の双方を併せて変更するのが望ましい。ただし、施設名を変更するには吹田市の条例改正が必要となり、現状では実現が難しいため、引き続き検討を行っているところである。

(紙谷評議員)

吹田市で行われている、すいたフェスタ、すいた産業フェア等での取組はないのか。

(天野参事)

すいたフェスタについては現状では参加していない。すいた産業フェアについては以前は工房成果品の展示やリユース食器の貸出等で参加していたが、数年前から環境政策室との協働出展ができなくなったため参加していない。すいた環境教育フェスタ、環境学習発表会は吹田市と共催で行っている。

議長は他に質問及び意見を求めたが、質問及び意見はなく、審議を終了した。続いて、本会議をもって辞任する原田憲監事が挨拶し、議長は午前11時10分に閉会を宣言し解散した。

この議事録が正確であることを証するため議長、議事録署名人及び理事長が記名押印する。

令和7年5月23日

議 長 内 田 慶 市



議事録署名人 岡 松 道 哉

議事録署名人 丹 羽 野 和 夫

理 事 長 小 幡 範 雄



本議事録の作成にかかわる職務を行った者の氏名

公益財団法人千里リサイクルプラザ

事務局参事 田 崎 貴 子

総務担当 林 幸 彦

